

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	-------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	森林整備課長 前島 和弘	電話番号	0852-22-5173
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	木材生産団地化推進対策事業		
目的	(1) 対象	森林所有者、林業事業者	
	(2) 意図	施業や経営の集約化、路網などの基盤整備を行い、木材生産コストの低減や生産規模の拡大を図り、木材の安定供給体制を整備する。	
事業概要	木材生産団地等において、基盤整備（高性能林業機械）に対する支援を行い、木材生産コストを低減させるとともに生産ロットを拡大し、木材の安定供給体制を整備する。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			間伐材生産量	目標値		36,000	36,000	
式・定義	間伐材生産量	実績値	31,000	39,354	42,315	34,950		
		達成率		109.30	117.50	97.10		%
指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
								目標値
式・定義		実績値	0.00	0.00	0.00			
		達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	0	0
うち一般財源 (千円)	0	0

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・平成26年度における高性能林業機械導入実績は、森林整備加速化・林業再生事業で4台、がんばる事業で1台（このほか、搬出路開設4,970m）。

・これまでに本事業で導入された高性能林業機械の活用等により、平成26年の木材生産量は、407千m³と前年（384千m³）に比べ増加した。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

各種補助事業により、路網整備と高性能林業機械の導入を進めてきた結果、木材生産を実施するための基盤整備は着実に整いつつある。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- 搬出間伐から主伐主体への移行時期を迎え、そのための基盤整備は整いつつあるが、施業地の集約化が進まず、伐採を断念せざるを得ないケースも少なくない。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- ・木材価格の低迷により、依然として森林所有者が伐り控える状況
 - ・森林組合の主伐に対する姿勢に相違
 - ・主伐を盛り込んだ森林経営計画の策定が低位
- ③原因を解消するための「課題」
- ・原木生産促進事業等の浸透による森林所有者への還元額の向上
 - ・各森林組合の主伐に対する方針の明確化
 - ・森林組合と素材生産事業者との役割分担

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

森林所有者への還元を確実に行うためには、森林施業のコスト削減を図ることが必要。このため、施業地の集約化を図るとともに、効率的な作業道等の整備や高性能林業機械の導入を進める。また、県産木材の安定供給を図るため、木材生産に主眼を置いた森林経営計画の策定を進めるよう森林組合等を指導する。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）